

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192800189		
法人名	社会福祉法人高佳会		
事業所名	グループホーム馬瀬村		
所在地	岐阜県下呂市馬瀬名丸27-1		
自己評価作成日	令和6年9月24日	評価結果市町村受理日	令和6年12月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2192800189-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2192800189-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和6年10月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設より8か月が経過する。1ユニット、9名女性ばかりのとても明るく笑顔溢れるグループホーム。建物は木製で明るく温かい内装となっている、また大きなガラス窓から見える景色は、季節を通して素晴らしく山の緑が心を和ませてくれる。9名はとても仲が良く同じ地元出身という事もあり何をすることも全員で決めて全員が楽しめるように、入居からまだ数か月の方ばかりの為、一人と外れることの無いように力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広い敷地に建てられた真新しい木造の建物は、大きな窓から季節感あふれる山々の景色が一望に見渡せ、心が和む環境である。事業所は、地域の介護サービスの必要状況や利用者の年齢、性別、介護度等に加え、介護職員の就労実態等、運営に関するデータをグラフにし見える化した上で、地域福祉の課題に前向きな姿勢で取り組んでいる。各委員会の組織図も表にし、職員への業務や役割への意識付けも行っている。法人独自のYケア期(看取りにはまだ早すぎる時期に、より優しく、安らかに、ゆったりとした時間が過ごせるケアの実践)の導入により、結果的に看取り期を遅らせ、入院者を減らし、利用者や家族に喜ばれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:15)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	50 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:8,9)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:14,27)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある ○ 3. たまに 4. ほとんどない
45 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:27)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:3)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている(参考項目:25,26)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53 職員は、活き活きと働いている(参考項目:10,11)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている(参考項目:20)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が ○ 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:18)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を職員の目に付く場所に掲げ常に意識出来るようにしている。また、ゲストが豊かな第二の人生を歩んでいただけるよう、お一人お一人に寄り添うケアを実践している。	法人理念「ゲストに満足と笑顔、地域に安心と輝きを」を全事業所の共通理念とし、職員の目に付く所に掲示している。理念と介護心得を記載したカードを全職員が携帯し、常に意識し支援している。全体会議でも話し合い、その人に寄り添うケアを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設から7カ月とまだ地域(地区)との交流は少ないが祭礼の参拝や隣のガソリンスタンドの方とは外へ散歩に出かけるとよく声をかけて下さる、床屋の利用に馬瀬の床屋さんを利用し楽しみに繋げている。	事業所開設2週間ほどで満床となり、利用者同士も顔見知りが多い。自治会に加入し、祭礼時には酒を奉納したり、家族から野菜の差し入れなどがある。訪問理容は地元の床屋であり、隣のガソリンスタンドとも顔馴染みである。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ等の感染状況を把握しながら今年開催している。また、馬瀬村の家族様は参加が多く初めてということもあり発言をされ感謝を述べられる方が多かった。	運営推進会議は同法人の特養と、馬瀬グループホームいきいきの合同で行っている。利用者家族も初めての事でもあり参加者が多い。運営推進会議の役割りや目的等を説明し理解を求め、家族からも意見や感謝の言葉が多く出ている。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	馬瀬村へは直接連絡を取り合うことは少ないが元気館を通して情報交換を行っている。	行政からの通知や補助金等に関する情報や手続きは本部が行うが、常に連携しながら情報内容を把握している。事業所は技能実習生を受け入れ、外国人職員のメンタル面をフォローできるよう交流会を開き、地域振興局から評価を得ている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行っていない確認は他の会議でも冒頭に必ず確認しあっている。ヒヤリハットや事故報告書の内容を把握し身体拘束となりうる自案がないか確認し日頃のケアに取り組んでいる。	運営規定に身体拘束に関する項目を明記し、担当者を決めて委員会の開催や全職員への周知を徹底している。委員会以外の会議でも、身体拘束となる事案はないかを常に話し合い、拘束をしないケアへの意識を高め、実践に取り組んでいる。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を通して自身の再確認が出来る研修内容がある。職員同士が意識を高めあうよう言葉の暴力、虐待は常に確認している。	虐待に関する項目も運営規定に明記し、定期的に虐待防止委員会の開催と内部研修を行っている。議事録を整備し、内容を全職員に周知している。職員は研修後に報告書を提出し、日々の取組みを振り返りながら支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年々、独居から施設へ入所される利用者が増えている。家族関係を理解して入居時は説明を行うようにしている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分な時間を頂いて、納得のいくまで説明し理解を頂いている。改定時は必ず文章にて説明と承諾を頂いており大きなトラブルになった事はない。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会等の開催は現状では考えていないため運営推進会議では多くの家族様に出席願いや、意見や要望を聞ける場を設けている。馬瀬村の家族様の参加が多く意見を頂けた。	2月に開設した事業所であり、家族の関心度も高く運営推進会議への参加が多い。毎週のように畑で採れた野菜を持って訪問する家族もある。利用者の身の回りについて細かな要望も出されている。事業所は、それに応える事が家族との信頼関係を築くことが何より大切と考えている。	開設から日も浅く、コロナ禍での面会制限もあり、家族が職員の顔と名前を知る機会が少ない。家族の安心と信頼関係を構築するためにも、職員の顔写真とコメントを入れての紹介や、職員異動時には報告を行うなど、工夫に期待したい。
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各部署のリーダー会議の時、職員から意見のあったことを報告し出来ることは実施し、職員募集の方法など馬瀬独自で工夫をして採用に繋がった。	職員の提案から、「さるぼぼ通信」に職員募集要綱を載せ、採用に繋がっている。看取り前の時期を充実した時間にする「Yケア期」と称した支援も職員発案であり、実践している。優れた発案には褒賞金を出すなど、職員のやる気に繋げながら、より良い運営に活かしている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	業務上、職員同士でも解決出来ないことや、迷った時は、管理者へは相談できる状況下にある。資格取得や研修への参加は業務内で参加できる体制がある。	職員は、疑問や相談はいつでも管理者に相談でき、安心して業務に当たっている。技能実習生の交流会を行い、文化の違いがある外国人のメンタル面のフォローをしている。研修は動画や書面での研修を活用し、業務内で参加できる体制である。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人を伸ばす取り組みとして研修は欠かせない。夜勤者は空いた時間に法人内研修を動画で受けレポート提出し常にトレーニングを進めている。	職員研修は計画的に行い、受講後のレポート提出を必須としている。また、管理者は、新人職員対象としたアプリ使用で、3年かけて介護福祉士の資格取得までをサポートするなど、職員教育に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域で開催される、講習会や勉強会には積極的に参加して交流しネットワークづくりを大切にしている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の大先輩として分からない事や昔の知恵をお借りする場面がみられる、また、職員の事を思い、声を掛けて下さる利用者様もみえる、とても暖かい関係にある。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いを大切にするため思い出の物、アルバムや趣味の物、また家族と毎日声が聴きたいという要望にも応え電話で話が出る体制もとっている。	利用者一人ひとりに、ホームでの暮らしの希望や意向を聞いている。居室には、好きなぬいぐるみや趣味の物を置くなど、その人らしい暮らし方と寄りそう支援で、みるみるうちに介護度が下がったと思える変化があり、職員のやりがいに繋がっている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	身体の調子が悪く食欲不振になった利用者には、家族、職員(看護師)、医師と今後の事も含めて話し合いの場を設け安楽に暮らせるよう意見を出し合い介護計画が立てられた。	サービス担当者会議には、多数の家族が参加している。業務日誌や申し送りの記録を活かし、すべての利用者のケアプラン見直しを行っている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々変化のあったその日に必ずモニタリングの記録を行っている、全員が目を通し共有しながら実践しそこで新たな気づきや工夫があった時は、iPadの申し送りで必ず確認し成果のあったことはモニタリングへの記録に繋げている。	利用者についての日々の気づきを個別記録に記載し、全職員が目を通して。個別ケア時の気づきや工夫した内容は、iPadの申し送りにも記録、確認している。成果があった事はモニタリングへの記録に繋げ、気づきの内容が文章では難しい時は、分かりやすいよう絵で書くなど工夫している。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎日家族の声を聴くのを楽しみと繋がりを大切にしている利用者様、夜間入浴を希望される時は入浴して頂き、柔軟なサービスを行っている。	かかりつけ医への受診や期日前投票などは、車椅子対応の車で支援している。また、利用者が希望する喫茶店への同伴、買い物代行等、職員が柔軟に対応している。就寝前入浴希望も受け入れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご近所様や家族様からの沢山の野菜の差し入れがあり、新鮮な野菜をどのように調理したらおいしいか、利用者様同士で話し合い食事のメニューに急遽取り入れて新鮮なうちに召し上がり楽しみとしている。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	依頼のある家族には、協力を得ている地域の診療所へ受診し週末の相談も医師と本人は話あひ家族へも連絡をしている。	往診体制が無いため、月に2~3回職員が受診に付き添っている。看護職員が利用者の医療管理に努め、週1回主治医に報告している。終末期も含めて医療機関とはいつでも相談できる体制がある。眼科・皮膚科は家族が付き添い、歯科は併設の診療所で対応している。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	まだ入院はないが、早期に退院できるように病院関係者とは電話にて相談できる関係を構築している。	医療機関とは、緊急入院や早期退院等の相談ができる関係性を構築し、情報を共有している。以前、入院した利用者が点滴を抜去した事があり、1日で退院となったが、事業所でYケア期の支援に努めている。現在、入院している利用者はいない。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	昨年から施設独自で設けたYケアを重度化する前段階から取り入れる事により、本人や家族、主治医とも早い段階から話し合える環境をつくり、十分な説明と同意を得て取り組んでいる。	利用者が重度化する前に、医師を含めて関係者で話し合い、職員は看取りに関する研修で学びを重ねている。事業所独自で設けた看取りケアの前段階を「Yケア期」と称して取り組み、本人と家族が安心して過ごせる環境作りも行っている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習会が年に二回開催される事により全員が必ず一度は講習を受講出来る体制をつくっている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は非常時の想定を変えながら全職員が講習を受けている。特に夜間想定訓練には夜勤者が必ず受けるようにしている。また備蓄品の準備も少しずつ増えている。	避難訓練は近隣の消防団、自治会長、民生委員と連携しながら実施している。通報訓練を行った事で課題点も確認することが出来ている。夜間に火災が起きた場合には、隣の建設会社に避難できるよう協力を依頼できている。BCP策定済みである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の心身の状況に応じた配慮をおこなっている、自立の高い利用者は、プライバシーも高く入浴時も時々見守る程度で、入浴を楽しんでみえる。その人に合った話し方で対応している。	高齢であっても、自立度の高い利用者は、入浴や排泄も一人で行ける為、見守りで支援している。介助が必要な利用者への入浴支援は同性介助としている。職員は接遇研修を受講し、利用者の状態に合わせて支援している。利用者への呼称も個々に合わせて名字や名前で呼んでいる。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自己決定しやすいように個別で話をして希望を聞いてみたり、入浴時や居室でのさりげない会話からも思いを聞けるように心がけている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の会話や表情を観察し今日は何の様に過ごしたいのか伺いレクの内容や料理の変更、入浴の変更も柔軟に対応し支援している。また広告や新聞の掲載を真似てみるとか日々の変化を楽しんでいる。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	新鮮な差し入れの野菜の時は全員で種取りや調理方法について話し合い懐かしい味を楽しんだり、洗い物や食器拭きも一緒に協力しあえる関係ができています。	通常の食事は3食共、職員の手作りで提供している。利用者家族から、旬の野菜の差し入れがあり、利用者と一緒に下ごしらえをするなど、季節感ある食事を楽しんでいる。朴葉寿司を作る時は、利用者も喜んで準備に参加し、郷土食を堪能している。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事面で心配な時は栄養士に相談しカロリーや栄養バランス等の相談ができアドバイスをもらってケアに努めている。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	施設内の歯科衛生士が随時ケアに入り状態の観察、指導を行い毎日の歯磨きには力を入れている。	理事長が歯科医師であり、デンタルルームを併設している。口腔ケア支援に力を入れており、水・木曜日に歯科治療が行われている。施設内の歯科衛生士がケアにあたり、毎食後と起床時の1日4回の歯磨きで、口腔内の状態向上に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の声掛けも間隔の短い人から早く誘導したり失敗を減らし、気持ちよく生活出来るように支援を行っている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	在宅の時と同じようにお風呂に入りたいという希望に答えられるよう、夜間の入浴も取り入れ入眠しやすい環境もつくっている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々に応じて就寝時間も利用者のペースに合わせている。日中も廊下の片隅や途中には休憩所や畳のスペースもあり、いつでも自由にリフレッシュ出来る空間がある。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者の病名や薬の内容を把握し変更の際は看護師より、注意点など細かく申し送りがあり全員が確認している。	全職員が利用者の病名や薬の内容を把握している。処方変更の場合は、看護師からの説明と申し送りを受け、全職員が確認している。服薬支援は管理者が中心となり、入念な管理体制で誤薬事故はない。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎朝の新聞取りと花の手入れ、玄関掃除や廊下のモップかけ、また歩行困難な方は洗濯たたみや新聞折と役割を持ち、張り合いのある生活をおくっている。	毎朝の新聞の取り込み、洗濯物たたみ、食器拭き、掃除など、利用者が何かしら役割を持って参加できるよう声かけしながら支援している。また、利用者の状態に合わせて、作業ができるよう工夫し自信につなげている。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援は、感染拡大の状況を見て、家族と自宅への外泊、外食、お墓参りなど出かけている。また戸外へ職員と出かけ花を摘んだり、ごみ拾いを行ったり生活に変化をつけ楽しみとしている。	天気の良い日には、周辺を散歩している。近くの喫茶店へは職員同伴で出かけている。コロナ対応も5類となり、家族との面会や外出も可能にしているが、地域での感染者情報も入ってきている。家族の理解を得ながら必要に応じた制限を設けるなど適切に対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は、家族と相談の上、希望される利用者には渡している。また今の野菜の値段や世間の状況をテレビや食料を実際に手に取り関心を持ち大切さを理解しやすいように支援している。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っているがかけることが難しい利用者様へは、ボタンを押すまでの支援を行い自ら家族様と会話を楽しまれる。施設に電話が家族様からあった時は、楽に話ができるよう居室に移動してゆっくり会話ができるように柔軟に対応している。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	内装全体が木をふんだんに取り入れてありとても明るく清潔で落ち着いた雰囲気、食堂とキッチン距離が短い匂いがたどよい居心地の良い場所となっている。	木の香りがする真新しい建物は、落ち着いた雰囲気があり、掃除が行き届いている。リビングにも調理時の匂いが漂い、家庭的で居心地良い空間である。利用者用トイレが2か所あり、浴室には、6か所から噴射されるシャワーのある最新式の機械浴を導入している。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	全員が集まる食堂では気分転換も兼ねて席替えや、数人でも集まれるように廊下には椅子やテーブルを置き思い思い過ごせる場所の工夫をしている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた布団、小物や本、アルバム、携帯電話の使用と居心地よく暮らせるように家族様面会時には常に相談をさせて頂きながら工夫を重ねている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	理解しやすい張り紙や、歩行しやすいように余分な物を置かないよう整理整頓し安全に生活が送れるように工夫している。		